

たまねぎレポート【第405号】



令和3年7月26日

阪南青果株式会社

社 内 報

6月の天候は、全国的に気温は高く、特に北日本ではかなり高かった。北・東・西日本では、降水量が少なく日照時間多い地方が多かった。沖縄・奄美の降水量はかなり多く、日照時間がかなり少なくなった。7月に入り静岡県地方の大雨で熱海市伊豆山地区に大規模な土石流が発生し、多くの死傷者と多数の家屋の流失・倒壊が発生する大災害となった。亦、北海道地方では、高温・少雨が続き早魃状態が続き農作物に大きな影響が出ている。今月末には、台風8号が関東・東北地方に接近上陸の可能性があると予報されている。

気象庁の8～10月の3か月予報に依ると、平均気温は、北日本で平年並み

亦は高い確率ともに40%、東・西日本と沖縄・奄美で高い確率30%。降水量は、西日本の太平洋側と沖縄・奄美で平年並み亦は多い確率ともに40%。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

9月、北・東日本と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

10月、北・東日本と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わる。西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。

野菜の概況

建値市場の6月の野菜の販売量は、211,770トン前年比96%(前月比97%)、平均単価はkg¥246前年比97%(前月比103%)。市場別には多少のバラツキがあったが、コロナウイルス禍の影響等で東京市場の減少が目立った。総じて販売量は前年比減、単価は前年比安となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比96%、平均単価はkg¥232前年比102%。東京市場の販売量は前年比93%平均単価はkg¥261前年比99%。名古屋市場の販売量は前年比104%、平均単価はkg¥238前年比96%。大阪本場の販売量は前年比100%、平均単価はkg¥244で前年比93%。福岡市場の販売量は前年比97%、平均単価はkg¥186前年比94%となっている。

建値市場の6月の玉葱の販売量は21,783トンで前年比100%、(前月比95%)、平均単価はkg¥100前年比111%(前月比109%)。総じては、前年比、前月比ともに入荷減の単価高であった。市場別の販売量と平均価格は、札幌市場の販売量は2,387トン前年比90%、平均単価はkg¥93前年比12

2%。東京市場の販売量は9,179トン前年比91%、平均単価はkg¥106前年比112%。名古屋市場の販売量は5,198トン前年比120%、平均単価はkg¥91前年比120%。大阪本場販売量は2,962トン前年比95%、平均単価はkg¥105前年比113%。福岡市場の販売量は2,057トン前年比111%、平均単価はkg¥99前年比111%となっている。

日本農業新聞社の調べでは、主要7地区代表卸7社の6月の主要野菜14品目の販売データの集計値は、販売量が92,229トン前年比2%減、平年(過去5年平均値)比2%減。平均単価は、kg¥146前年比6%安、平年比2%高となっている。販売量が前年比増の品目は、ニンジンが前年比18%増、ホウレンソウが7%増、ジャガイモが6%増、タマネギ3%増など4品目。販売量が前年比減となった品目は、ダイコン・トマトが前年比11%減、ナス・キュウリが10%減など9品目。価格が前年比高となった品目は、レタスがkg118で前年比24%高、トマトがkg¥276・タマネギがkg¥88でいずれも11%高など7品目。前年比安となった品目は、ジャガイモがkg¥153で前年比37%安、ニンジンがkg¥103で36%安、ネギがkg¥353で12%安など7品目となっている。

東京都中央卸売市場の6月の野菜の入荷量は、116,676トン前年比93%(前月比95%)。平均単価はkg¥261前年比99%(前月比104%)で前年比、同月比ともに数量減で、価格は前年比安、前月比高となっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、バレイショが前年比116%、ホウレンソウが110%、ニンジン・ナマシイタケ108%など5品目。入荷が前年比減の品目は、ハクサイが前年比82%、ダイコンが84%、トマトが87%など10品目。価格が前年比高の品目は、レタスがkg¥148で前年比129%、タマネギがkg¥106で112%、トマトがkg¥300で111%など6品目。前年比安の品目は、バレイショがkg¥178で前年比63%、ニンジンがkg¥124で71%、ホウレン

ソウがkg¥428で85%など9品目。となっている。

東京都中央卸売市場の6月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	116,676	93.1	95.2	261	98.7	104.0
た ま ね ぎ	9,179	91.3	92.0	106	111.8	105.0
キ ャ ベ ツ	15,497	91.6	85.5	86	96.4	134.4
レ タ ス	8,022	93.3	131.3	148	129.0	89.2
ば れ い し ょ	7,796	116.0	89.1	178	63.1	62.0
き ゅ う り	7,534	97.7	78.7	266	94.4	103.5
ト マ ト	7,249	86.9	79.7	300	110.5	106.0
に ん じ ん	6,370	107.6	82.8	124	71.1	86.7
は く さ い	6,188	82.0	94.0	72	103.8	153.2
だ い こ ん	6,002	83.7	76.0	108	104.8	131.7
ね ぎ	3,608	95.7	95.9	368	87.9	88.7
か ぼ ち ゃ	2,467	114.3	121.4	201	71.8	84.5
な が い も	950	77.4	95.7	308	102.3	103.4
れ ん こ ん	153	126.3	39.2	1,175	79.8	204.4
に ん に く	172	70.6	66.4	1,039	122.9	84.8

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の6月の玉葱の入荷量は9,179トン前年比91%（前

月比92%)。西日本の梅雨入りが早く、府県産の5月予定の収穫・出荷が後ズレした影響で、6月の入荷が増加すると予想されたが、予想に反し減少した。6月後半の市況の軟化と農作業の遅れが影響したと思われる。主力の佐賀物の入荷は3,657トン前年比92%、占有率40%で前年と同じ。兵庫物は2,076トン前年比106%、占有率は23%前年比3ポイントアップ。北海物は745トン前年比177%、占有率8%で前年4ポイントアップ。栃木物は547トン前年比74%、占有率6%前年比1ポイントダウン。香川物は545トン前年比72%。総平均単価はkg ¥106前年比112%(前月比105%)。産地別の平均単価は、佐賀物はkg ¥105前年比117%。兵庫物はkg ¥113前年比95%。北海物はkg ¥113前年比110%。栃木物はkg ¥96前年比122%となっている。

7月に入り、佐賀・兵庫の主力産地の先高期待ムードに刺激され、市況はジリ高歩調となったが、コロナ禍による飲食需要の低迷で、大粒の2Lの受け皿が縮小し、2Lの動きが鈍く、2Lに引っ張られL・Mの動きも頭打ちとなった。月後半には、中小産地の出荷も終盤となり、オリンピックの特需で需要が回復傾向となり、相場はジリ高傾向になると予想されていたが、需給に変化はなく、昨今の市場は品余りの状態にあり、来週相場は20kg ¥100程度値下がりする可能性が強い。8月早々から北海物の入荷が始まる雰囲気であり、昨今の市況は弱含みの気配となっている。一部の荷受けでは来週7月27日から北海物の販売を予定している。

7月1日～20日の入荷量は6,477トンで前年とほぼ同じ、平均単価はkg ¥120前年比95%。産地別では、兵庫物の入荷は2,822トンで前年比118%、平均単価はkg ¥121前年比82%。佐賀物は1,549トン前年比82%、平均単価はkg ¥124前年比103%。香川物は463トン前年比119%、平均単価はkg ¥124前年比108%。北海物は306トン前年比1312%、平均単価

はkg ¥131前年比116%。富山物は225トン前年比71%、平均単価はkg ¥106前年比95%となっている。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の6月の玉葱販売量は5,198トン前年比120% (前月比93%)で前年比増、前月比減となっている。主力は地場の愛知物で、販売量は2,610トン前年比135%、占有率50%前年比5ポイントアップ。兵庫物は1,835トン前年比110%、占有率35%前年比3ポイントダウン。北海物は633トン前年比102%、占有率12%前年比2ポイントダウン。総平均単価はkg91前年比105%(前月比114%)で、順調に推移した。産地別の平均単価は、愛知物はkg ¥84前年比115%。兵庫物はkg ¥111前年比98%。北海物はkg ¥62前年比105%となっている。

7月に入り、地場産の愛知物は終盤を迎え、兵庫物主力の販売に移行した。兵庫物は、関西市場の高値に追随販売の状態、買参人に高値疲れが出て、荷動きは鈍化傾向となった。愛知物に替り富山物が入荷しているが、不作型で球流れはL・M中心で小売り店向けに好適だが、週間30~50トンの入荷に留まっている。昨今も、荷動きに回復が見られず、特に2Lの動きが鈍く、Lの動きも今一つで、市況は弱保合。完売出来ず多少の在庫を抱えながらの販売となっている。8月の2週目には、北海物の販売が本格化するが、今年の盆前の需要は平年より減少する見込みで、北海物も産地の希望値の販売は厳しいと予想している。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場での6月の玉葱の販売量は、2,962トン前年比95%(前月比101%)で前年比減、前月比微増となった。梅雨入りが平年より3週間も早く、収穫が後ズレしたことや、コロナ禍の収束が期待出来ず、飲食店

の閉店・休業店が相次ぎ、外食需要の低迷が続き、月後半は軟調市況となったことで、産地の様子眺めの出荷が続いた。産地別の販売量は、兵庫物は1,854トン前年比101%、占有率63%前年比5ポイントアップ。佐賀物は675トン前年比203%、占有率23%前年比12ポイントアップ。愛媛物は168トン前年比78%占有率6%前年比1ポイントダウン。北海物は103トンで前年比55%、占有率3%前年比3%ダウン。総平均単価はkg ¥105前年比113%(前月比108%)。数量減の単価高となった。産地別の月間平均単価は、兵庫物はkg111前年比98%。佐賀物はkg ¥98前年比124%。北海物はkg ¥100で前年比141%となっている。

7月に入って、入荷は少な目で引き合いは強まり、市場内には強気ムードが台頭した。主力の兵庫物は高値のため、割安品を求める客が増え、量販店では昨年に比べ病害が少なく、比較的ロットが大きく、割安の佐賀物の引き合いが強まった。手入れが不十分で品質面では見劣りするが、佐賀物より一段安の愛媛物も引き合いがあり、完売状態が続いた。昨今では、入荷は安定化し需給は均衡化しているものの、酷暑の影響やコロナ禍の感染拡大で、引き合いは弱まり、荷動きは鈍化傾向にあり、価格維持が精々となっている。

7月1日～20日の入荷量は2,539トン前年比106%、平均価格はkg ¥108前年比92%。産地別では、主力の兵庫物のお荷は1,897トン前年比118%、平均価格はkg ¥116前年比82%。愛媛物は204トン前年比72%、平均価格はkg ¥77前年比96%。佐賀物は164トンで前年比176%、平均価格はkg ¥110前年比101%。和歌山は123トン前年比51%、平均単価はkg ¥41前年比114%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の6月の玉葱販売量は、2,057トン前年比114%(前

月比104%)で、前年比、前月比ともに増となっている。佐賀物が主力で、佐賀物の販売量は1,552トン前年比136%、占有率75%で前年比11ポイントアップ。北海物は157トン前年比71%、占有率は8%で前年比4ポイントダウン。福岡物は114トン前年比74%、占有率6%前年比3ポイントダウン。月間総平均単価はkg ¥99前年比127%(前月比104%)で前年比、前月比とも高値で順調に推移した。産地別の平均単価は、佐賀物はkg ¥101前年比113%。北海物はkg ¥90前年比92%。福岡物はkg ¥97前年比99%。となっている。

7月に入り、月前半は荷動き順調で市況は堅調に推移したが、後半からは主力佐賀産地の特に商系が相場に厳しく、入荷は減少傾向となり、産地追随型の販売となった。価格高から荷動きに陰りが見られ相場は頭打ちとなった。昨今では佐賀物はJAの入荷が増加傾向で、品薄感はなく売れ行きは今一つとなっている。地場産の福岡物は、給食向けに販売していたが、給食が中断期で受け皿がなくなり、値下がりにしている。北海物は、8月第2週目からの販売となるが、価格的には¥2,500前後を予想している。

7月1日～20日の玉葱の販売量は1,377トン前年比112%、平均単価はkg ¥107前年比94%。数量増の価格安となっている。

7月24日(土)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷209 トン 弱い セリ売りなし、相対売り

北 海 20kgNT2L ¥2,000～1,900、L大 ¥2,500～2,100、L ¥2,400～2,000、
M ¥2,000～1,800。

佐 賀 20kgDB2L ¥2,200～2,000、L ¥2,700～2,500、M ¥2,500～2,400。

【太田市場】 入荷241 トン 弱保合

佐 賀 20kgDB2L ¥1,600～1,500、L ¥2,500～2,300、M ¥2,500～2,400。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,600～1,500、 L ¥2,600～2,400、 M ¥2,600～2,500。

愛 知 10kgDB2L ¥800 ～ 700、 L ¥1,300～1,200、 M ¥1,300～1,200。

【名古屋北部】 入荷201 トン 弱保合

兵 庫 20kgDB2L ¥1,600～1,500、 L ¥2,500～2,300、 M ¥2,600～2,400。

富 山 20kgDB2L なし L ¥2,300～2,100、 M ¥2,200～2,100。

【大阪本場】 入荷126 トン 保合

兵 庫 10kgDB2L ¥800 ～ 700、 L ¥1,300～1,100、 M ¥1,300～1,200。

兵 庫 20kgDB2L ¥1,600～1,400、 L ¥2,500～2,200、 M ¥2,600～2,400。

佐 賀 20kgDB2L ¥1,500～1,400、 L ¥2,300～2,200、 M ¥2,300～2,200。

愛 媛 10kgDB2L ¥650 ～ 600、 L ¥900 ～ 800、 M なし

【福岡市場】 入荷112 トン 保合

佐 賀 10kgDB2L ¥900 ～ 700、 L ¥1,300～1,050、 M ¥1,300～1,100。

佐 賀 20kgDB2L ¥1,800～1,700、 L ¥2,400～2,300、 M ¥2,400～2,300。

福 岡 10kgDB2L ¥800 ～ 700、 L ¥1,100～1,000、 M ¥1,100～1,000。

供給(産地)の動き

コロナ禍で、7月のオリンピックも無観客開催となり、人の往来が少なく、需要は期待外れとなった。府県産の主要産地の佐賀・兵庫では、昨年と比べ病害によるロス率が少ないが、昨年は北海産の豊作で盆以後の市況が急落したことなどを反映して、出荷は前進化傾向にある。特に、冷蔵産地の淡路島では冷蔵入庫が10前後前進化している。何れの産地も8月出荷の即売物の在庫は前年より少ない。

北海産は、全道的に高温早魘の天候が続き、生育は前進化しているものの、極早生以外は高温障害で球伸びは今ひとつで、生育途上の中晩生の作柄は、

今後の天候次第だが、平年作が精々で下回る可能性が高い。極早生の出荷は8月に入れば本格化する。

府県産地

佐賀産地では、7月後半の軟調市況と高温による病害発生を懸念して、出荷焦りが台頭し、除湿乾燥物以外の即売の残量は昨年より少ない。一部を除き盆前にはほぼ終了する。冷蔵入庫は納入業者と加工筋に限られ、前年並みの入庫を予想している。主力産地の白石地区の産地価格は、20kg・裸値・3L ¥300、2L ¥1,000～1,200、L・M ¥1,600～1,700。である。

兵庫の産地淡路島では、ポリコン詰の短期貯蔵や小屋吊り玉葱の出荷が本格化している。近年、梅雨明け後に猛暑が続くと、病害の発生や高温障害で商品化率の低下を招くことが多く、出荷は前進化傾向にある。更に、昨今では軟調市況を反映して、生産者に出荷焦りが台頭し、生産者の選果場への持ち込みが多く、JAなどの選果場も連日残業が続いている。商系では、冷蔵入庫が前進化し、盆前には満庫になる冷蔵庫が多い。今年の冷蔵入庫量は、前年比20%増の110万ケース(2万2千トン)前後を予想している。入庫価格は20kg・ ¥1,300～1,500。

北海道産地

今年、北海道地方の天候は、地域別に多少の差はあるが、5月は多雨・寡照で全道的には平均気温は平年比0.3℃高、降水量は123%、日照時間は80%。6月は多照・少雨で全道平均値は平年比で、平均気温は1.5℃高、降水量は64%、日照時間は145%となっている。関係機関の7月15日の生育状況調査では、生育は7～3日早く、球肥大は大と報告されている。当社担当者の観察では、全道的に早魃が続き、極早生は平年以上の球肥大となっているものの、中晩生の圃場は、水不足で葉鞘が色褪せしている圃場が多く、葉先が枯

れた圃場や既に倒伏が始まっている圃場が目につき、中晩生の作柄は平年作を下回る。と話している。此の先、降雨に恵まれても平年作が精々と推測している。直近1週間の当社関係の極早生種の球流れは、2L27%(前年13%)、L大38%(＼46%)、L24%(＼32%)、M4%(＼3%)、S1%(＼1%)、外6%(＼5%)となっている。

輸入動向

6月の輸入は速報値で20,731トン前年比95%で、何れの国からも前年比減となっている。主力の中国からは19,666トン前年比95%。ニュージーランドが899トン前年比65%。オーストラリヤが160トン前年比75%となっている。

中国、現在の供給産地は山東省だが、現在は終盤を迎えている。既に日本向け主力産地の甘粛省の出荷が始まっている。作付け面積は、昨年の高値を反映して増加している模様。産地相場は意図的に値下げ傾向にあり、現在のオファ価格は、剥き玉20kg・C&F・\$9.00~8.50となっている。

アメリカ、今シーズンの正確な作付面積は入手していないが、コロナ禍の影響で外食産業の需要が減少していることや、近年輸出量が減少していることで、ワシントン州でも、作付面積を減らしている生産者が多い。現在の供給産地は、カリフォルニア州だが、国内マーケットが堅調で50¢、黄玉\$14.00、赤玉\$24の水準で推移している。日本向け価格は、C&F・黄玉Jサイズ・\$17.45、赤玉Jサイズ・\$27.95となっている。

8月の市況見通し

7月後半の市場は、予想に反し活気がなく、市況は軟化傾向となった。オリンピックで盛り上がりを期待したが、無観客開催となり空振りに終わった。今年は梅雨時から猛暑続きで、野菜全般に売れ行きが鈍化している。玉葱の供給は

盆までは府県産が主力、盆以後は北海産主力に移行すると予想しているが、コロナ禍の影響で需要喚起が難しく、従来と異なり8月の価格水準は7月を下回る可能性が高いと予想している。北海産の中晩生の作柄が前年を大きく下回ると予想されることで、8月の需給は均衡から品余り傾向になる可能性もあり、北海産の作柄次第で大きく変動する。現状の私的な感触では、月前半は府県産の20kg・L ¥2,300~2,000。盆明けの後半は北海産20kg・L大 ¥2,000~1,800。を予想している。(了) ……笹野敏和記……